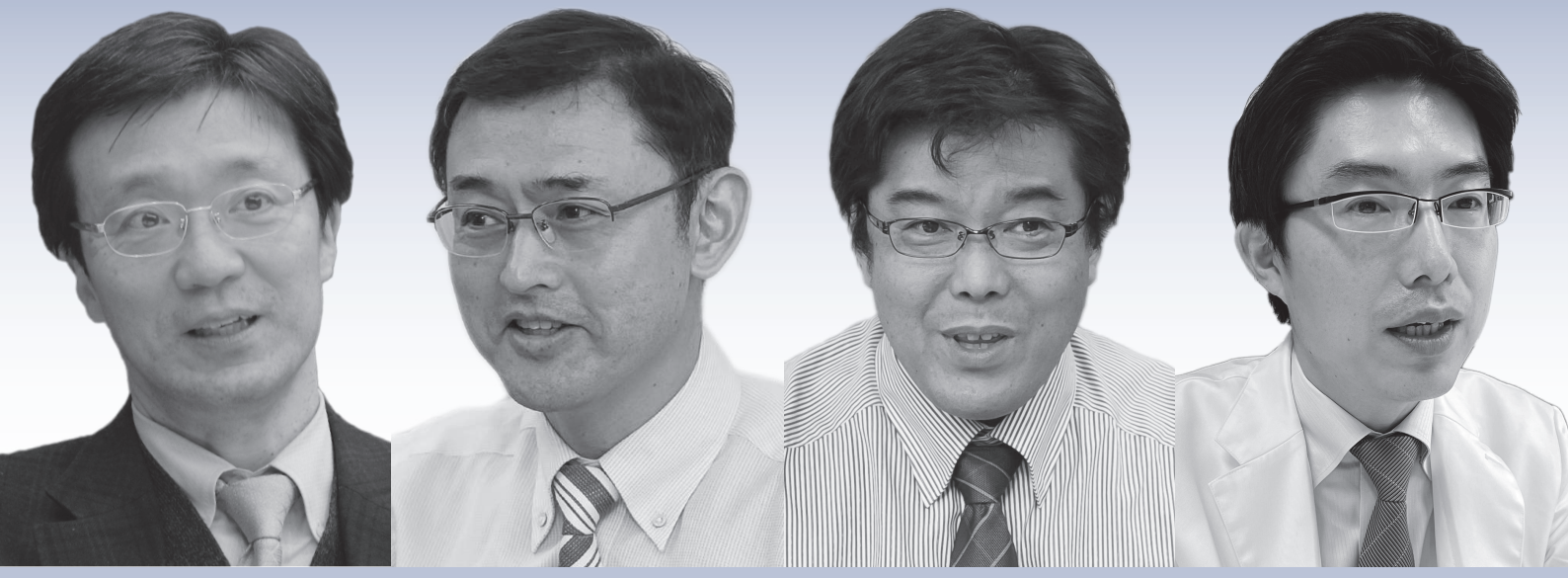
座談会



Round Table Discussion

前立腺癌の画像診断の最前線：unmet needsへの現状と展望

司会

鈴木 和浩
群馬大学大学院医学系研究科
泌尿器科学教授

出席者（発言順）

楫　　靖
獨協医科大学放射線医学講座
主任教授

堀越 浩幸
群馬県立がんセンター
放射線診断部放射線診断部長

渡部 直史
大阪大学大学院医学系研究科
放射線統合医学講座
核医学助教

前立腺癌治療の進歩により，正確な局所の病期診断および臨床的に意義のある癌の拾い上げにおいて画像診断の重要性が増している。一方，前立腺癌骨転移で使用されてきた骨シンチグラフィには偽陽性・偽陰性の問題があり，全身MRIの有用性が注目されるようになった。さらに近年，より精度の高い診断法としてPSMA-PETが開発され，日本でも早期導入が期待されている。今回は，これらの新しいモダリティが前立腺癌の画像診断におけるunmet needsをどう解決するかについて，エキスパートの先生方にご討議いただいた。

SAMPLE

Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.